2022年農研機構　秋のオンライン一般公開　特別冊子

農村の草花

タネが風で飛ばされやすい草花　編

この冊子は、農村工学研究部門メールマガジンから一部抜粋しています。

農研機構　農村工学研究部門

ハハコグサ　（キク科）

分布：全国

学名：*Gnaphalium affine*（グナファリウム　アフフィネ）

母子草　　別名：ホウコグサ，ゴギョウ，キバナグサ，トノサマヨモギ，カラスノオキュウ

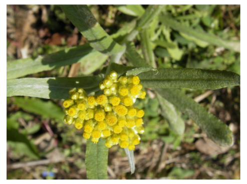
主な生育場所

田の畦，入水前の水田，畑，樹園地，荒れ地，休耕田，野原，庭先など，人里や農地周辺の至るところに普通にみられる。日当たりの良いやや湿った場所を好むが，冠水するような場所には生えない。

特　徴

全体に白い綿毛で覆われた越年草ときに多年生。茎は根元から分枝し，直立する。冬期はロゼット葉で過ごし，茎につく葉は柔らかくヘラ型で互生し縁はやや波打つ。4～6月ごろ，枝先に舌状花がなく黄色の筒状花のみ集まった頭花をつける。ロゼット葉は花期には枯れる。花後に長さ約2mmの冠毛のある0.5mmほどの種子をつける。

名前の由来：名の由来には多説あり，葉や茎が白い綿毛をかぶっている様子から，母親が子を包みこむように見えたことから、母子草（ハハコグサ）の名がついたという説が一般的である。



枝先に集まった筒状花

＜農業との関係＞

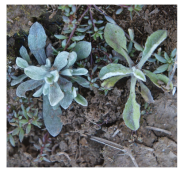
ハハコグサは，縄文時代後期にムギ類の栽培とともに朝鮮半島経由で中国大陸から日本列島に渡来してきた史前帰化植物のひとつとされている。従って，今でも水田裏作の小麦や大麦栽培時に多く生えることがあり，雑草害を引き起こす場合がある。また，芝栽培でも問題となることもある。しかし，春耕や入水後の水田では姿を消し，害草となることはない。。

＜生活史＞　　関東 地方の例（目安）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育期	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩			🟩	🟩	🟩	🟩
開花・結実期				🟨	🟨	🟨						

1年あたり　越年1　世代

＜類似種＞ チチコグサの頭状花は黄緑色で，包葉がよく目立ち，葉の幅はハハコグサより狭く，表面にはあまり毛を生やさない。外来種のウラジロチチコグサやチチコグサモドキは，葉腋にも集合花をつけ，いずれも花の色は淡褐色～紅色となる。



左：チチコグサモドキ，
右：ハハコグサのロゼット葉

＜一言うんちく＞

牧野富太郎博士によれば，茎の白毛が”ほおけ立って”いるので，「ハハケル」と呼ばれ，母子の字が充てられたとされました。また，古名ゴギョウ（御形）とは，平安時代の文徳天皇の祖母と父が相次いで亡くなったとき，不思議と野辺にハハコグサの姿がなかったとの故事によります。

＜人との関わり合い＞

春の七草のひとつとして，旧暦の1月７日ごろに摘んだ若菜を茹でて七草がゆにいれたり，ヨモギと同様に草団子や草餅の材料にする。また，綿毛がたくさん生えている若菜は天ぷらにしても美味しい。生薬では鼠麹草（そきくそう）と呼ばれ，開花期に全草を採取し，水洗いして天日でよく乾燥させたものは，咳止め，痰止めに良いとされる。また，全草を黒焼きにしてゴマ油と混ぜたものは，皮膚病や田虫に効くとされる。古来には，乾燥させた花を煙草にして煙を吸わせ，胆石治療にも使われていた。

＜俳句や短歌への登場＞

【季語：春】 老いて尚なつかしき名の母子草　（高浜虚子）　　すりこぎや父はおそろし母子草　（斎部路通）
花の里心も知らず春の野にいろいろ摘めるははこもちひぞ　（和泉式部）
ははこ摘むやよひの月になりぬればひらけぬらしな我が宿の桃　（曽禰好忠）
はるの田を耕し人のゆきかひに泥にまみれし鼠麹草の花　（長塚　節）

オオジシバリ　（ キク科 ）

分布：全国

学名：*Ixeris japonica*（イクセリス　ヤポニカ）

大地縛り　　別名：ツルニガナ（蔓苦菜），ジシバリ，這い地縛り，岩ニガナ

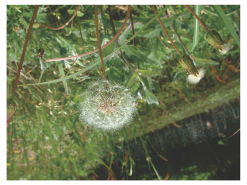
主な生育場所

田や畑の畦畔，休耕田，路傍，草地，樹園地，土手，原野などに生える。日当たりが良く，やや湿った場所を好む。最もよく見られるのは水田の畦畔で，伝統的な畦の植生を代表する草花の一つ。

特　徴

多年生。根出葉を放射状に拡げ，細い茎を地表あるいは浅い地中に長く四方に伸ばす。茎の節から葉や根を下ろし，長い柄の葉は互生し浅くまばらな鋸歯がある。葉や茎の切り口から出る白い乳液は苦い。葉腋から伸びる花茎は高さ20cmほどでタンポポに似た径約3cmの頭花を2～3つける。皮針形のそう果は長い冠毛をもつ。

名前の由来：細長いほふく茎で地面を這って広がっていく様子が，まるで地面を縛っているようだとして地縛り。類似の地縛り（イワニガナ）より花や葉がが大きくなることから，大地縛り。



花後にタンポポに似た冠毛をもつ種子をつける。

＜農業との関係＞

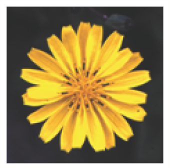
成長点が低い位置にあるため，草刈りに強く，また被陰には弱いため，刈り払い機などで適切に管理されている水田畦畔で多くなる。除草剤を多用する畦や基盤整備直後に造成された畦畔では見かけることが少なく，伝統的な畦草刈りによる管理の指標となる。耕起には弱いため，水田や畑地内に入ることはほとどないが，耕起管理が少ない樹園地などではやっかいな雑草となることがある。

＜生活史＞　　関東 地方の例（目安）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育期			🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	
開花・結実期				🟨	🟨	🟨						

1年あたり　1　世代

＜類似種＞ タンポポ類は匍匐茎を伸ばさず，花茎につく花は一つ。やや乾いた場所にも生えるイワニガナはオオジシバリ同様に地面を這って四方に広がるが，全体小型で葉は広卵形，花の大きさは径2～2.5cmほど。



花は舌状花のみからなり，中央に黒っぽい雄しべがよく目立つ。

＜一言うんちく＞

オオジシバリは春から初夏にかけて花数が多く，ミツバチなどの蜜源としても貢献しています。しかし，かつては各地の水田の畦にありふれた花でしたが，コンクリート畦の増加や除草剤による管理が増えたたため，最近はほとんど見かけることが少なくなってしまった地域もあるようです。

＜人との関わり合い＞

全体に苦みがあるが，若葉は「苦み菜」として食べることができる。開花期に全草を採取し，よく洗った後に日干ししたものは生薬名で剪刀股（せんとうこ）と呼ばれ，健胃，消炎，解熱に効能がある。健胃薬としては，センブリの代用となる。また，蓄膿症にも効果があるとされる。

＜俳句や短歌への登場＞

【季語：設定なし】
春から夏にかけて水田まわりでよく見かける花にかかわらず，意外だが，季語の設定もなく，これまで短歌や俳句に登場することはなかったようである。

ウラジロチチコグサ（ キク科 ）

分布：本州・四国・九州

学名：*Gnaphalium coarctata*（グナファリウム　コアルクタータ）

裏白父子草　　別名：アメリカチチコグサ

主な生育場所

田畑の畦、道ばた、堤防、芝地、公園、庭先、果樹園、荒れ地、植え込みの下、コンクリの隙間など。種子が風散布されるので、乾いていて日が少しでもあたる土地ならどこでも侵入・生育する。

特　徴

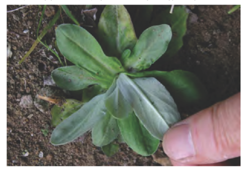
南アメリカ原産の多年生。高さ30～80cmほど。茎は基部から短く横に這って分株をつくる。葉はヘラ状で表面は光沢のあるやや明るい緑色，裏面には密着した白毛が密生し，白く見える。ロゼット葉で越冬。茎につく葉の縁は波打つ。茎の上部に多数の花を集めた頭状花をつけ，総苞片は光沢のある緑色。種子には冠毛がある。

名前の由来：チチコグサ（右下写真）に似て、葉の裏面がチチコグサよりも白く見えることから裏白チチコグサ。また別名は、南アメリカ原産から。

初夏から秋にかけて長期間開花がみられる

＜農業との関係＞

基部から枝分かれし，地面に張り付くように密に分株を形成しながら広がり、踏みつけや刈り込みに対しても強く，果樹園や畑地，芝地で害草となることがある。また除草剤に対しても枯れにくいことから，ゴルフ場などでは近年増加しているようだ。ただし，耕起には弱く頻繁に作付けするような畑には見られない。



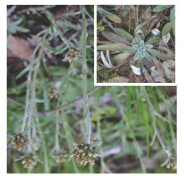
ロゼット葉の裏面には密な白毛があり白い

＜生活史＞　　関東 地方の例（目安）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育期	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩
開花・結実期					🟨	🟨	🟨	🟨	🟨	🟨		

1年あたり　越年1　世代

＜類似種＞ チチコグサの葉は線形でウラジロチチコグサよりも細い。また葉の裏面はウラジロチチコグサ同様白っぽくなるが，葉の表の色は濃緑色。チチコグサモドキの葉は幅広いが葉の裏面はあまり白くならず，葉の表面にふんわりした毛が多い。



チチコグサとチチコグサのロゼット（左下）

＜一言うんちく＞

チチコグサの仲間には外来種が多いのですが，最近（昭和40年代後半ごろ）定着するようになった新参者です。急速に分布を拡げており，他のチチコグサの仲間よりも花期が長く遅くまで花をつけていることから，各地の庭先などにも葉の裏が白いロゼットが目立つようになってきました。

＜人との関わり合い＞

同属のハハコグサは春の七草のひとつとなっていますが，同じように在来種であるチチコグサや外来種のウラジロチチコグサなどを食べたり薬用に利用した記録はない。ただ，庭先などで冬期に光沢のある明るい緑色の葉を広げているロゼットの姿はよく目立ち，名前は知らずとも憶えのある方も増えてきているのではないだろうか。お正月飾りに使われるウラジロなどに通じ，どこかすがすがしさや縁起物を感じさせてくれる草花である。

＜俳句や短歌への登場＞

【季語：春　※チチコグサ】 ウラジロチチコグサの季語は不明。
父子草父の寡黙をわれも享く（椎木万紀子）　　たまさかに子と野に出れば父子草（轡田 進）
けぶれるは羅漢の山の父子草（原田　喬）　　父子草母子草その話せん（高野素十）
父子草もどきが飛ばす梅雨の絮（青木重行）

ブタナ　（ キク科 ）

分布：全国

学名：*Hypochoeris radicata*（ヒポコエリス　ラディカータ）

豚菜　　別名：タンポポモドキ

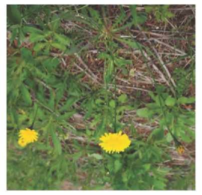
主な生育場所

道端、野原、空き地、庭先、水田の畔、法面草地、畑、芝地、果樹園、牧草地など明るく乾いた環境によく見られる。草刈りがよく行われる場所に多く、やぶのような草刈りの少ない場所には見られない。

特　徴

ヨーロッパ原産の多年草。葉は根生し、タンポポの葉のように分裂する。両面に黄褐色の硬い毛が密生する。4月ごろから花茎を高さ50㎝程度まで伸ばし、上部で数本に枝分かれた先に径3～4cmほどの舌状花のみからなる頭花をつける。花後はタンポポのように冠毛をつけたそう果となり、表面には細かい突起が密生する。

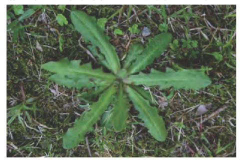
名前の由来：本種は原産地のフランスで「salade de pore（豚のサラダ）」で呼ばれており、それを直訳したもの。別名の「タンポポモドキ」とは、外見がタンポポによく似ていることから。



花茎は枝分かれし2～3個の頭花をつける

＜農業との関係＞

タンポポと同様に直根を地面深く伸ばすが、耕起には弱いため、畑や水田で問題となることは少ない。他の植物よりも刈り取り圧に強いため、果樹園や芝地では群落化してしまうことがあり、特に芝生を生産する畑ではブタナの群生によって芝生が刈れてしまうため、強害草として扱われる。



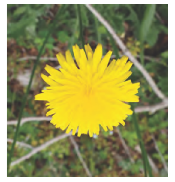
切れ込みが浅く硬い毛が密生するロゼット葉

＜生活史＞　　関東 地方の例（目安）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育期				🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩			
開花・結実期				🟨	🟨	🟨	🟨	🟨	🟨			

1年あたり　1　世代

＜類似種＞ タンポポの仲間は、花茎が枝分かれせず茎頭に頭花を一つだけつけ、葉にはほとんど毛が生えない。同じくヨーロッパ原産のヒメブタナは、全体的に小型で毛も少ない。



タンポポに良く似た頭花

＜一言うんちく＞

セイヨウタンポポの増殖力も旺盛ですが、ブタナも環境に対する適応性が高く、都市部から農村部、海浜から高山帯まで広く分布を拡げています。踏みつけや刈取りにも耐性があり、類似種のヒメブタナとの雑種も報告されており、すでに全国各地で初夏の風景の一部になりつつあります。

＜人との関わり合い＞

植物体全体が食用となり、ヨーロッパなどでではボイルされた葉を野菜のように食べているようだ。タンポポ同様に苦みはあるものの、若葉は苦みが少なく、サラダ、茹で野菜、揚げものなどにすると美味しい。成長が進んだ茎葉部は硬く、あまり食されない。根もタンポポと同じく、コーヒーの代替品として炒ってハーブティーとして利用される。

＜俳句や短歌への登場＞

【季語：不明】
昭和初期に帰化してからまだ間もないため、俳句や短歌などへの登場は見ない。

---

② はさみ

メリケンカルカヤ　（　イネ　科）

分布：北海道を除く全国

学名：*Andropogon virginicus*（アンドロポゴン　ウィルギニクス）

米利堅刈萱　　別名：　特になし

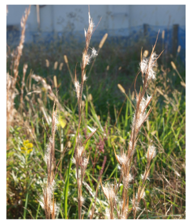
主な生育場所

農村部から市街地にいたる空き地，道ばた，芝生などの草地，水田の畦畔，休耕地，水路やため池の法面など，日当たりが良く乾燥した環境下に多く見られる。刈り取り圧にも強いが湿地には少ない。

特　徴

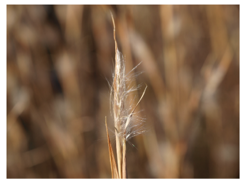
種子と根茎により繁殖する多年草。草丈は50-100cmとなり，叢生しやすいが，生長速度は極めて遅い。茎は扁平で，葉鞘にやや長い毛を散生する。9-10月頃に直立した稈を伸ばし，多数の穂をつける。長さ8mmほどの白い綿毛がついた種子は，風によって伝播する。。晩秋から冬にかけて，全草が朱色に紅葉し，枯れ草も目立つ。

名前の由来：メリケンとは，アメリカのことを表し，カルカヤとは屋根を葺くために「刈る茅」のこと。綿毛をつける在来のススキやメガルカヤなどに似ているが，アメリカからきた外来植物を示している。



＜農業との関係＞

シバの生産地では，刈り込み耐性が強く，年を経るごとに根株が強大化するため，強害雑草とされている。また，オーストラリアなどでは侵略的な外来種として扱われているなど，我が国でも今後，牧草地や畑地，果樹園などでの強害雑草化が懸念されるため，特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）により要注意外来生物に指定されている。



綿毛をつけたメリケンカルカヤ種子

＜生活史＞　　関東 地方の例（目安）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育期				🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩
開花・結実期									🟨	🟨	🟨	

1年あたり　1　世代

＜類似種＞ 在来のカルカヤには，草原生のメカルガヤ（雌刈萱）とオカルガヤ（雄刈萱）とがある。種子に綿毛をつける様子が似ているが，いずれもメリケンカルカヤよりも草高が高くなり（1m以上），茎はさほど扁平にならず，小穂も大型で種子の毛も長

草原に生える在来種のメカルガヤ

＜一言うんちく＞

北米原産ですが，現在ではアジア，オーストラリア，太平洋諸島など環太平洋の各地に帰化しています。我が国では，1940年頃に名古屋市から西日本を中心に拡がり始めました。酸性土壌に強いため，化学肥料の過剰使用などによる土壌の酸化に伴い増加する可能性も指摘されています。

＜人との関わり合い＞

茅葺きの屋根をほとんど見かけなくなり，「茅」の用途がなくなりつつある中，新たな「カルガヤ」が各地で跋扈しつつある。本種の分布の拡大には，芝の全国的な流通も要因の一つとされる。いまや，晩秋から初冬にかけての身近な野辺に綿毛や紅葉が目立つメリケンカルカヤは，セイタカアワダチソウと並んで，我が国の近年の里の秋を彩る景観として定着しつつある。このようにして，里山や里地の風景も，いつのまにかアメリカなどからきた草花にとって代わられてしまうのであろう。

＜俳句や短歌への登場＞

メリケンカルカヤとしての，俳句や短歌への登場はまだみない。
屋根を葺く「茅」（メガルカヤだけでなく，ススキやチガヤなども含む）は，秋の季語として知られている。
たとえば，
わが書きし文字さへふりぬ萱薄　蝶夢　など

---

③やまおり

ススキ　（　イネ　科）

分布：全国

学名：*Miscanthus sinensis*（ミスカンツス　シネンシス）

薄　　別名：カヤ，オバナ，テキリガヤ，カヤンボ，尾花

主な生育場所

野原，堤防法面，畦畔，耕作放棄地，山地の草原など，乾いた日当たりの良い場所を好み大群落となる。草地の代表的な植物。酸性土壌にも強く，火山帯にもよく見られる。観賞用に庭に植えることも。

特　徴

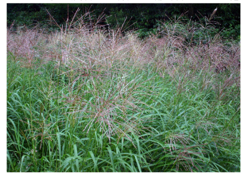
太くて短い根茎を持つ多年生。節間が短い茎は直立し高さ2mほどに達する。叢生し，葉は堅く中央に太く白い脈がある。葉縁は細かい尖った刺があり，触ると手を切りやすい。8-10月ごろ稈先に茶褐色あるいは紫褐色の花穂を散房状につける。小穂の基部には多数の白毛が生え，熟すと果柄から離れる。種子には約1cmの芒がある。

名前の由来：「スス」はすくすくと生えることで，「キ」は草を指すという。また，「スス」は「ササ」と同様に細い葉を示し，葉縁が鋭くよく切れることから「切っ先」の「キ」をとって，ススキとしたとも。

秋の農村の風景によく似合うススキの穂

＜農業との関係＞

耕耘に弱いため，通常，畑に生えることはないが，不耕起畑や果樹園などではときに雑草となる。その場合，刈り取りに非常に強く大株となり，また地下に根茎を伸ばすので，駆除は困難である。一方，水田や畑の草抑えや土壌改良などを目的として刈り敷きの材料によく利用されてきた。また，牛馬が餌として好み，火入れにも強いことから放牧地や採草地では積極的にススキ草地を維持してきた。



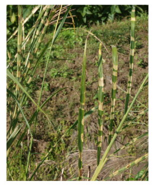
出穂したばかりのススキの紫褐色の花穂

＜生活史＞　　関東 地方の例（目安）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育期				🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	🟩	
開花・結実期								🟨	🟨	🟨	🟥	🟥

1年あたり　1　世代

＜類似種＞ よく似たオギは，湿地に生え，根茎が長く伸びるため茎は単生し，小穂の基部の白毛はススキより長くよく目立つ。また，暖地の海岸近くには生えるハチジョウススキはススキよりも大型で，葉も幅広く，また葉縁の刺は鈍く，触っても痛くない。



葉に白い斑が入った観賞種：
タカノハ（鷹の羽）ススキ

＜一言うんちく＞

仲秋の名月は，農耕儀礼の一つで，もともとは畑で秋に獲れる豊かな実りを祝う収穫祭でした。団子等を神に供えるとともに災いを祓うために，葉縁が鋭く，また茎が固いため切り口も尖るススキを供えたとされます。お月見のあとには，ススキを庭先や畑にさして魔除けとしたそうです。

＜人との関わり合い＞

カヤツリグサ科のスゲ属やチガヤとともに，「カヤ」と呼ばれ，かつては茅葺き屋根に使われたり，家畜の餌に利用されたり，生広く利用されてきたため，ススキ草地の維持のために集落の近くには定期的に刈り取りや火入れを行う「茅場（かやば）」が設けられていた。観賞用に品種改良も行われてきた。また，薬用にもなり，晩秋に採取した根茎を乾燥させ，刻んで煎じると，解毒や利尿，高血圧に効くとされる。また，穂は干して毛を開かせ煎じと飲むと香ばしい。穂を束ねてミミズクの姿に似させて遊ぶことも。

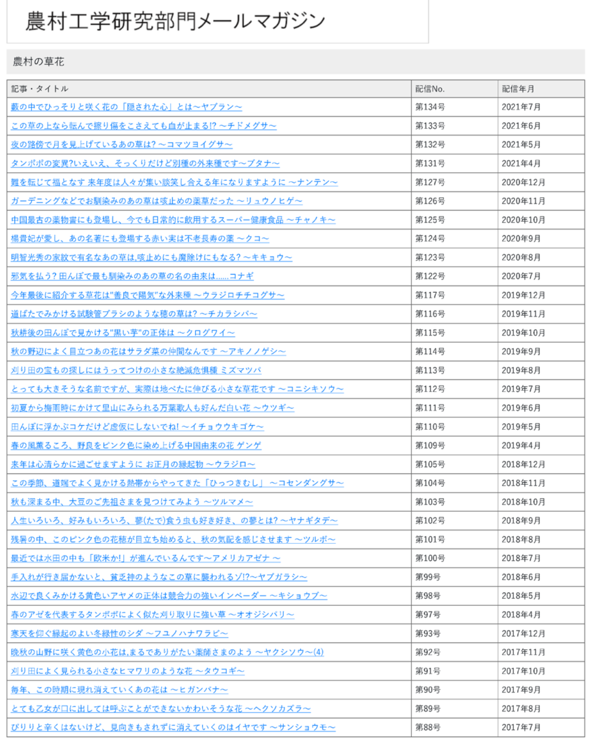
＜俳句や短歌への登場＞

【季語：秋】山は暮れて野は黄昏の芒かな　（与謝蕪村）　　をりとりてはらりとおもきすすきかな　（飯田蛇笏）
萩の花尾花葛花撫子の花女郎花また藤袴朝顔の花　（万葉集・山上憶良）　※尾花＝ススキ
婦負の野の薄おしなべ降る雪に屋戸借る今日し悲しく思ほゆ　（万葉集・高市黒人）
朽ちもせぬその名ばかりをとどめおきて枯れ野のすすき形見にぞ見る　（西行）

---

③　やまおり

この冊子の他の記事はこちらのページをご覧下さい。
https://www.naro.go.jp/laboratory/nire/mail_magazine/genre/kusabana.html



農村工学研究部門メールマガジン

農村の草花

記事・タイトル	配信No.	配信年月
藪の中でひっそりと咲く花の「隠された心」とは～ヤブラン～	第134号	2021年7月
この草の上なら転んで擦り傷をこさえても血が止まる!?～チドメグサ～	第133号	2021年6月
夜の路傍で月を見上げているあの草は?～コマツヨイグサ～	第132号	2021年5月
タンポポの変異?いえいえ、そっくりだけど別種の外来種です～ブタナ～	第131号	2021年4月
難を転じて福となす 来年度は人々が集い談笑し合える年になりますように ～ナンテン～	第127号	2020年12月
ガーデニングなどでお馴染みのあの草は咳止めの薬草だった ～リュウノヒゲ～	第126号	2020年11月
中国最古の薬物書にも登場し、今でも日常的に飲用するスーパー健康食品 ～チャノキ～	第125号	2020年10月
楊貴妃が愛し、あの名著にも登場する赤い実は不老長寿の薬 ～クコ～	第124号	2020年9月
明智光秀の家紋で有名なあの草は,咳止めにも魔除けにもなる?～キキョウ～	第123号	2020年8月
邪気を払う?田んぼで最も馴染みのあの草の名の由来は……コナギ	第122号	2020年7月
今年最後に紹介する草花は"善良で陽気"な外来種 ～ウラジロチチコグサ～	第117号	2019年12月
道ばたでみかける試験管ブラシのような穂の草は?～チカラシバ～	第116号	2019年11月
秋耕後の田んぼで見かける"黒い芋"の正体は ～クログワイ～	第115号	2019年10月
秋の野辺によく目立つあの花はサラダ菜の仲間なんです ～アキノノゲシ～	第114号	2019年9月
刈り田の宝もの探しにはうってつけの小さな絶滅危惧種 ミズマツバ	第113号	2019年8月
とっても大きそうな名前ですが、実際は地べたに伸びる小さな草花です ～コニシキソウ～	第112号	2019年7月
初夏から梅雨時にかけて里山にみられる万葉歌人も好んだ白い花 ～ウツギ～	第111号	2019年6月
田んぼに浮かぶコケだけど虚仮にしないでね! ～イチョウウキゴケ～	第110号	2019年5月
春の風薫るころ、野良をピンク色に染め上げる中国由来の花 ゲンゲ	第109号	2019年4月
来年は心清らかに過ごせますように お正月の縁起物 ～ウラジロ～	第105号	2018年12月
この季節、道端でよく見かける熱帯からやってきた「ひっつきむし」 ～コセンダングサ～	第104号	2018年11月
秋も深まる中、大豆のご先祖さまを見つけてみよう ～ツルマメ～	第103号	2018年10月
人生いろいろ、好みもいろいろ、蓼(たで)食う虫も好き好き、の蓼とは?～ヤナギタデ～	第102号	2018年9月
残暑の中、このピンク色の花穂が目立ち始めると、秋の気配を感じさせます ～ツルボ～	第101号	2018年8月
最近では水田の中も「欧米か!」が進んでいるんです～アメリカアゼナ ～	第100号	2018年7月
手入れが行き届かないと、貧乏神のようなこの草に襲われるゾ!?～ヤブガラシ～	第99号	2018年6月
水辺で良くみかける黄色いアヤメの正体は競合力の強いインベーダー ～キショウブ～	第98号	2018年5月
春のアゼを代表するタンポポによく似た刈り取りに強い草 ～オオジシバリ～	第97号	2018年4月
寒天を仰ぐ縁起のよい冬緑性のシダ ～フユノハナワラビ～	第93号	2017年12月
晩秋の山野に咲く黄色の小花は,まるでありがたい薬師さまのよう ～ヤクシソウ～(4)	第92号	2017年11月
刈り田によく見られる小さなヒマワリのような花 ～タウコギ～	第91号	2017年10月
毎年、この時期に現れ消えていくあの花は ～ヒガンバナ～	第90号	2017年9月
とても乙女が口に出しては呼ぶことができないかわいそうな花 ～ヘクソカズラ～	第89号	2017年8月
ぴりりと辛くはないけど、見向きもされずに消えていくのはイヤです ～サンショウモ～	第88号	2017年7月

農村工学研究部門メールマガジン　購読申込はこちら
https://www.naro.go.jp/laboratory/nire/mail_magazine/index.html

禁・無断転載